

2015年度
事業報告書
(2015.4 - 2016.3)

公益財団法人 都市活力研究所

事業の状況

【公益事業1】 産学官の交流連携を促進するとともに人材育成、教育研修を実施することで、産業を振興し、地域社会の活性化を図る事業

1. バイオ・ライフサイエンス分野におけるシーズを育成する事業

- 創薬シーズ相談会

創薬シーズ、創薬基盤技術に対する評価を製薬企業などの専門家がを行い、研究開発の方向性についてアドバイスすることによる産学官の交流・連携の促進を支援するため、大阪医薬品協会の協力により「創薬シーズ相談会」を計5回実施した。

日時	シーズタイトル	シーズ相談者
6/29	新生児脳障害治療薬・診断バイオマーカー	国立精神・神経医療研究センター 神経研究所疾病研究第2部室長 伊藤 雅之
7/29	イミノ糖を基盤としたグルコシダーゼ阻害剤および糖脂質生合成阻害剤	富山大学附属病院薬剤部 加藤 敦
8/24	高い骨分化能と物理的強度を持つ脂肪由来幹細胞シート	金沢大学医薬保健研究域・教授 土屋 弘行
8/26	クローン病治療薬	株式会社オーエスユー・代表取締役 山田 修
	アセトアルデヒド直接分解薬(急性アルコール中毒用点滴薬, 舌苔由来の低濃度長期間暴露によるガン予防)	

- BIO2015

2015/6/18-20 米国・フィラデルフィアで開催されたバイオの展示会 BIO2015 に参加。10社と面談し、うち2つの創薬シーズを創薬シーズ相談会の相談委員に紹介した。

- 経営支援相談会

バイオ関連分野での起業予定者が抱える経営課題を解決に導くコンサルティングサービスで、起業準備、マーケティング、法律、税務・会計など、経営に関する様々な分野の専門家(弁護士、弁理士、会計士等)が無償で相談に応じる。今期は、起業間もないベンチャーからの相談を受け、弁護士および会計士の協力により1回実施した。

日時	タイトル	相談者
3/22	会社法、会計関連についての相談	日本革新創業株式会社

また、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議から近畿経済産業局「バイオベンチャー知財戦略支援事業」の業務の一部を受託し、近畿県内のバイオベンチャーの技術動向および製品・商品や経営課題などをヒアリング、バイオベンチャー広報用の冊子の制作に協力した。

2. 創薬分野におけるスーパーコンピュータ利用を促進する事業

- インシリコ創薬支援事業

インシリコ創薬(スパコンなどコンピュータを活用した創薬)に関する様々な情報の提供・各種相談・コンサルティングなどができる拠点づくりを目指してインシリコ創薬に関する相談会、講習会を計4回実施した。

日時	タイトル	参加
7/13	遺伝子ネットワークの推計ソフトウェア SiGN-BN の講習会と実習	8名
9/1	「REIN-K」レプリカ交換分子動力学計算インターフェイス・ソフト および「CafeMol」粗視化分子モデル計算ソフト講習会	22名
9/29	大規模生体分子ネットワーク解析プログラム BENIGN 講習会	10名
3/28	「Platypus-QM/MM」量子化学計算/分子動力学連成計算ソフト講習会	4名

また、スパコン創薬のアウトリーチを目的として、下記のセミナー等を共催した。

日時	タイトル	参加
10/31	生命医薬情報学連合大会 2015 バイオグリッドセッション～ポスト京が拓く創薬と医療の新展開～	約90名
11/5	「ゲノミクスからの創薬、診断薬開発及びその背景にある倫理的課題」	56名
12/18	第9回スーパーコンピュータ「京」と創薬・医療の産学連携セミナー-HPCI 計算科学推進プログラム- ポスト「京」への期待	83名
1/22	第10回スーパーコンピュータ「京」と創薬・医療の産学連携セミナー-HPCI 計算科学推進プログラム- ポスト「京」への期待	57名

3. 新技術、新サービスの実現を加速するための事業

- 実証実験プロジェクトの支援

IT やロボット技術の研究や事業化を目指す研究者で、大阪において実証実験を希望する方を対象に相談助言を行う。2015年度は実施実績が無かった。

4. 技術革新や新たな価値創造を支える人材の育成及び人的ネットワークのあり方について調査を行う事業

(1)人材育成事業

- アーバン・イノベーション・セミナーの企画・開催

産業の活性化に関わる最新の動向を紹介するセミナーとしてアーバン・イノベーション・セミナー(産業分野)を次のように開催した。

日時	タイトル	共催等	参加
4/16	シリコンバレーに学ぶ起業家精神～イノベーション噴出の仕組み～		19名
4/18	世界各地におけるダイバーシティの事例		16名
5/11	気候変動問題をビジネスチャンスに -スタートアップと大企業～公的事業者のコラボで社会問題に立ち向かうアメリカの新たな挑戦～	駐大阪神戸米国領事館 大阪イノベーションハブ	42名

9/14	英国自動車産業におけるイノベーションとビジネス機会	英国貿易投資総省 駐日英国大使館、英国総領事館 大阪イノベーションハブ	56名
9/16	シリコンバレー発、次世代型スマートシティへの取り組み	駐大阪神戸米国総領事館	53名
11/13	英国オックスフォード大学総長アンドリュー・ハミルトン氏 来阪記念講演 イノベーション創出における大学の役割 ～オックスフォードの事例に学ぶ	オックスフォード大学 アイシスイノベ ーション	61名

- GVH OSAKA Startups Demo Day 2015

GVH Osaka は 2011 年に梅田にオープンした(株)サンブリッジ グローバルベンチャーズが運営するコワーキングオフィスである。GVH Osaka オープン以来「スタートアップのエコシステムを大阪に創る」ことを目標として活動し、現在、会員総数 70 名超、その内の約 50%がスタートアップス会員である。GVH Osaka の活動により大阪発の資金調達に成功した企業も誕生しはじめている。そこで本年度より、GVH Osaka のこれまでの活動を契機として生まれた大阪発スタートアップと投資家、企業、メディアの方々とのマッチングの場として”GVH OSAKA Startups Demo Day“を開催することとし、春季を 4 月 28 日、秋季を 10 月 16 日に共同開催した。メディア、起業家、投資家など春季 89 名、秋季 81 名の参加を得た。

- グローバルイノベーション創出支援事業

2013 年 4 月、うめきたに開業した Osaka Innovation Hub を拠点として大阪市が取り組むグローバルイノベーション創出支援事業を ATR、都市型産業振興センター、サンブリッジ グローバルベンチャーズとともに受託し、主に国際展開、人材育成、プロジェクト創出事業を担当。2016 年 2 月 17 日、海外から先進的な取り組みを行う起業家、投資家等をゲストとした国際イノベーション会議を企画開催するとともに国内外の起業家を招聘しインターナショナルピッチコンテストを実施した。起業家、投資家、各国総領事館関係者、大学生など 602 名の参加を得るとともに、テレビ、海外オンラインメディアなど 23 件のマスコミ掲載を得た。

また、2016 年 2 月 23 日から 27 日にかけて、学生及び若手起業家 37 名を対象に、米国シリコンバレーでの起業家育成研修プログラムを実施、帰国後には一般参加者を対象に、報告会を実施した。

- Tomodachi Women's Leadership 2015 共催

女性グローバルリーダー育成プログラム「Tomodachi Women's Leadership」は米国大使館が推進しており、大阪地区では、駐大阪・神戸アメリカ総領事館（関西アメリカンセンター）主催のもと 2013 年度より実施され、当財団が共催してきた。本年度も駐大阪・神戸アメリカ総領事館の審査を通過した 20 名に対して 9 月より開講、全 5 セッションを実施した。

- スーパーコンピューティング・コンテストの開催

大阪大学、東京工業大学との共催により、高校生・高専生を対象にした高いレベルのプログラミング技術を競うコンテストを開催した。本年度は、本選を 8 月 17 日～8 月 21 日に開催し、全国から予選を勝ち抜いた 20 チームが大阪大学、東京工業大学に集結して大阪大学のスーパーコンピュータを用いて課題を解くプログラムを作成し、その解答の正確さ、速さを競った。優勝は、筑波大学附属駒場高等学校、準優勝 久留米工業高等専門学校、3 位 明石工業高等専門学校であった。

- バイオ講座 '15

昨年度に引き続き、神戸大学と当財団との共同主催にて、ライフサイエンスビジネスに関わる人材の育成を目的として、起業を念頭においた『ライフサイエンスビジネス MOT』講座を開催した。MOTとは技術経営を意味し、本講座は“イノベーション・新技術をベースにした新事業創造やベンチャー企業のあり方”に主眼を置いており、大学院生、大学・機関研究者、起業家(企業内起業家、大学発起業家)を目指す若手研究者・事業開発担当者を対象に少人数制で、ライフサイエンスの様々な分野に渡るオムニバス形式の 1

3講義+5グループワークから構成されている。国内外の産業界の第一線で活躍する方々を講師として招き、MOTの要素を加えた講義を通じて、生命科学系産業全般の現状、課題ならびに将来展望等、ライフサイエンスビジネスのグローバルな知識や考え方を得る場を提供した。講師陣および受講者同士の異分野・異業種間での交流会も開催。今期の受講生は定員を超える32名だった。

(文部科学省地域イノベーション戦略プログラムに指定)

日時	タイトル	講師
9/5	・オリエンテーション ①リーダーシップと組織パフォーマンス ②創薬イノベーション ・交流会	森 一郎(神戸大学連携創造本部) 能見貴人(サノフィ株式会社) 坂田恒昭(塩野義製薬株式会社) 味村和洋(当財団)
9/26	③知識経済を生み出す米国シリコンバレーの仕組み ■デザイン思考ワークショップ(1) デザイン思考、親和図法等	橋本康弘(株式会社シリコンバレーテック) 祇園景子(神戸大学連携創造本部)
10/17	④健康・医療産業と周辺産業への参入ギャップの現状と今後のあり方 ■デザイン思考ワークショップ(2) 病院スタッフとの意見交換	卯津羅泰生(淀川キリスト教病院) 祇園景子(神戸大学連携創造本部) 淀川キリスト教病院のスタッフ4名
11/17	⑤フードビジネスの世界戦略 ⑥バイオベンチャーの目論見書解説 ・交流会	Anne Mensink(Food Valley NL) 松田一敬(合同会社 SARR)
11/28	⑦世界の医療技術/医薬品開発の課題とGE Healthcareの取組み ⑧企業価値向上のための法務経営戦略 ■デザイン思考ワークショップ(3)	梶原大介(GEヘルスケアジャパン株式会社) 井垣太介(西村あさひ法律事務所) 祇園景子(神戸大学連携創造本部)
12/19	⑨医療分野の新産業創出 ⑩ライフサイエンスビジネスとファイナンス ・交流会	宮田俊男(日本医療政策機構) 北地達明(有限責任監査法人トーマツ)
1/16	⑪日本のとるべき知財戦略 ⑫医療系ロボティクス最新情報 ■デザイン思考ワークショップ(4)	山本秀策(山本特許法律事務所) 山田憲嗣(大阪大学大学院医学系研究科) 祇園景子(神戸大学連携創造本部)
2/6	⑬バイオベンチャーの醍醐味と苦労話 ■デザイン思考ワークショップ(5)、発表 ・交流会	安達宏昭(株式会社創晶) 祇園景子(神戸大学連携創造本部)

● 関西ライフサイエンス・リーディングサイエンティストセミナー

本セミナーは、ライフサイエンス分野で最先端の研究を展開している関西の先生方に講演をいただき、製薬企業、医療機器企業、診断薬企業、健康食品、サプリ、医療関係者などのライフサイエンス分野の関係者および一般の方々に、医療・健康・ヘルスケア産業に関する最先端の研究の紹介を通じて、本分野の最新情報ならびに参加者同士の交流の場を提供することを目的として開催している。

NPO 法人近畿バイオインダストリー振興会議と当財団との共同主催、大阪医薬品協会の後援にて、2～3か月に一度の開催で、全10回を予定している。毎回、テクノロジー分野とバイオロジー分野の講師から、最先端の研究についてホットな話題と共に、参加者に講師と直接話ができる場を提供する。

	タイトル	講師	参加
第4回 6/12	「アレルギーとがん免疫に対するアジュバント開発研究の新展開」 「米国に於ける臨床ビッグデータを用いた観察研究」	国立研究開発法人医薬基盤・健康・栄養研究所 創薬デザイン研究センター長 石井 健 大阪大学大学院医学系研究科 教授 新谷 歩	67名
第5回 9/11	「日本の免疫研究とその臨床応用」 「我が国初のバイオ医薬の創出に向けて」	大阪大学大学院医学系研究科 副研究科長 熊ノ郷 淳 大阪大学大学院薬学研究科 研究科長 堤 康央	51名
第6回 12/11	「細胞の守護者オートファジー：細胞の自己成分分解システムが様々な疾患を抑制している」 「第3世代抗体医薬品の開発に必須のアダプター分子の設計」	大阪大学大学院医学系研究科 遺伝学教室 大阪大学特別教授 吉森 保 大阪大学大学院 工学研究科 教授 井上 豪	45名
第7回 3/11	「iPS 細胞がもたらす新たな軟骨疾患研究」 「復活した遺伝子治療～最近の成果と課題～」	京都大学 iPS 細胞研究所 教授 妻木範行 大阪大学大学院医学系研究科 教授 金田安史	59名

● バイオメディカル研究会

本研究会は、日本バイオインフォマティクス学会の関西地域部会が主催であり、当財団は共催としてセミナーの企画、運営など全面的に協力・支援している。今年度はバイオメディカルイノベーションへの道標という標題を掲げ、第19回と第20回を開催した。後援として、NPO法人近畿バイオインダストリー振興会議、NPO法人バイオグリッドセンター関西など関西のバイオ専門団体に協力をいただいている。セミナー後の交流会も盛況で、アカデミアとインダストリーの各々の研究者の情報交換の場となり、専門家コミュニティが出来つつある。

	タイトル	講師	参加
第19回 10/30 大阪と京都で2元 中継	テーマ【人工知能のバイオメディカル応用】 「医療ビッグデータと機械学習によるインシリコ創薬」 「Watsonの医療応用」 「オミックスビッグデータ解析と人工知能による個別化・先制医療」 「人工知能に向けた富士通研究所の取り組み」	九州大学生体防御医学研究所・高等研究所 山西芳裕 IBM 溝上敏文 東京医科歯科大学難治疾患研究所 角田達彦 富士通研究所 岡本青史	104名
第20回 3/25	テーマ【Precision Medicine への展開】 「日本のゲノム研究の現状と今後」 「京都大学病院における Biobank and Informatics for Cancer プロジェクトとクリニカルシーケンスについて」 「ゲノム研究政策に基づくAMEDの目指す方向性について」	大阪大学名誉教授 松原謙一 京都大学大学院医学研究科 武藤 学 日本医療研究開発機構 加藤 治	57名

(2) 調査研究事業

- 大阪における起業環境・産業立地に関する基礎的研究
 起業環境を整え、地域産業を活性化する継続的な取り組みについて、世界の先進事例を調査研究した。7月にはニューヨークを訪問し、サンブリッジグローバルベンチャーズ主催のビジネスプランコンテスト Innovation Weekend in NYC の開催を支援しつつ、現地の起業家、投資家との情報交換を行うとともに、コワーキングオフィス We Work や NY Media Centre 等を訪問、その活動内容についてヒアリングを実施した。また、11月には世界最大の起業家イベントと言われる SLUSH(フィンランド)、高い実績が評価されているアクセラレーター Startup Boot Camp の Demo Day(ベルリン)に参加した他、現地の企業、起業家との面談、イギリスのアクセラレーター訪問などを通じて、欧州におけるイノベーション創出の仕組みについて調査を行った。
- 未来創薬研究会
 本研究会は、アカデミアや製薬企業の研究開発者を中心にメンバー制にて、創薬分野における近い将来の革新的技術およびその方向性などを探り、それを活用するための仕組みや仕掛けづくりを検討する研究会として、今年度は外部の講師も招き、下記の通り、3回意見交換を行った。

	タイトル	講師
1/6	「日本のゲノム政策への提言」	大阪大学 名誉教授 松原謙一
2/24	「ライフサイエンス分野、健康分野において10年、15年後にどのような社会・技術が実現しているか？実現したいか？（夢や理想含む）」	メンバー全員でブレインストーミング
3/24	「マイクロバイオームと健康」	味の素株式会社 フロンティア研究所 主任研究員 亀山恵司

- ヘルスケア分野についての調査・研究
 健康医療分野の産業振興に資する新たなビジネスモデルや新たな医療機器関連サービスの創出のための調査・研究。スマートウェルネス研究会主催、当財団共催でヘルスケア関連分野の一般向けセミナーを企画・立案し、同分野の最新動向や課題などの情報を提供することを目的として4回開催した。セミナーの質疑応答および意見交換のセッションでは参加者から活発な質問や意見を多数もいたらい、関心の高さを伺い知ることができた。セミナー後、交流会も開催し、専門家コミュニティの醸成ができてきた。

	タイトル	講師	参加
第9回 7/13	「CCRCの日本における展開モデルを探る」	三菱総合研究所 プラチナ社会研究センター 主席研究員 松田 智生	66名
第10回 10/2	「人の存在を伝達する遠隔操作型アンドロイドの未来」	株式会社国際電気通信基礎技術研究所 所石黒浩特別研究所 主幹研究員 西尾 修一	27名
第11回 1/26	「情動変化の科学的解明と新事業開発への応用」 「情動評価の事業化と今後のビジネス展開」 「情報評価サービルを活用したヘルスケア・リビングラボ」	理化学研究所 片岡 洋祐 株式会社 Kokorotics 井門 孝司 よどきり医療と介護のまちづくり株式会社 卯津羅 泰生	46名
第12回 3/29	「遠隔見守りシステムの新たな展開」	東京疲労・睡眠クリニック 院長 大阪市立大学医学部疲労医学講座 エコナピスタ株式会社 梶本 修身	30名

【公益事業2】まちづくりを推進し、都市の活性化を図る事業

1. これからのまちづくりのあり方についての調査研究

● 都心戦略検討会

新たなまちづくりの調査研究として、学識経験者、行政、企業などのメンバーで構成される研究会を開催している。本年度は来年度を含めた2か年の検討とし、「個性化戦略」と「都市再生と産業戦略」についてシナリオを研究するとともに、大阪市内の複数区で構成するエリアでマスタープランとアクションプログラムを検討することにより、2008 年に関経連で作成された大梅田グランドデザインの改訂版をイメージした成果物の作成を目指し、本年度はゲストスピーカーを招き議論を行ったほか、参加メンバーによるワークショップも開催した(参加メンバー21名)。

また、具体的なエリアとテーマを定めてフィールドワークを行う「ワーキング」を、大学との共同研究という形で推進した。

- ・ワーキング A 大阪市北区のオープンスペースネットワーク化によるまち魅力向上策の検討(大阪大学)
- ・ワーキング B 御堂筋オフィス街のソフト面での活性化策の検討(京都工芸繊維大学)

<都心戦略検討会(本会)の進捗>

	タイトル	講師
第1回 (10/8)	平成27年度 検討会の進め方について 現状と課題認識	(事務局より説明)
第2回 (11/4)	「すまい・まちづくりトーク」第4回 (都心戦略検討会拡大版シンポジウム) 都市再生の好循環を考える	国土交通省都市局 まちづくり推進課 官民連携推進室長 中村 健一 氏 大阪市都市計画局 計画部長 角田 悟史 氏 株式会社日本総合研究所 理事 関西経済研究センター所長 廣瀬 茂夫 氏 関西学院大学 総合政策学部 教授 角野 幸博 氏
第3回 (1/19)	これからの文化とまちづくりについて	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社 芸術・文化政策センター 兼 経済・社会政策部 主席研究員/センター長 太下 義之 氏
第4回 (2/18)	イノベーションと都市の成長:空間経済学の視点 から	大阪大学大学院経済学研究科 准教授 山本 和博 氏
第5回 (3/3)	船場・三休橋筋における自律的まちづくり活動 ～リノベーション型都市再生の一事例として～	三休橋筋愛好会 篠原 祥 氏(大阪ガス)
第6回 (3/30)	ワークショップ～エリア MICE(都心型 MICE)～	(参加メンバー全員で実施)

● 郊外まちづくり

大都市近郊エリアの市町村に存在する郊外住宅地が今後人口減少・高齢化することにより生じる問題への対応方策を調査研究するため、都市住宅学会との共同研究「駅から始まるコンパクトシティ形成」をテーマとした研究会を開催した。なお、本年度より、テーマに関連する自治体や鉄道事業者をメンバーに加えている。

	タイトル	講師	参加
第1回 (9/25)	団地再生の取り組みについて ～三木市緑ヶ丘・青山地区～	大和ハウス工業株式会社 大阪都市開発部 企画部 企画グループ 脇濱 直樹 氏	17名

第2回 (11/10)	まちの保健室の取り組みについて	よどぎり医療と介護のまちづくり株式会社 まちのイノベーション事業部 部長 卯津羅 泰生 氏	21名
----------------	-----------------	--	-----

また、郊外住宅地における課題抽出と機能集約などコンパクトシティ形成を促進していく具体的、実践的な方策を検討するため、同学会への委託研究を行った。

対象地区	研究担当者
(1) 高度経済成長期に開発されたニュータウン ・近鉄 奈良市西部、生駒市	関西学院大学 総合政策学部教授 角野 幸博 関西大学 環境都市工学部 建築学科 准教授 岡 絵理子
(2) 70年代後半以降、計画的に開発されたニュータウン ・能勢電鉄 川西市、猪名川町	武庫川女子大学 生活環境学部 講師 水野 優子 大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻 助教 伊丹 康二

● Kansai Tourism Supporters

関西に留学する外国人学生によるボランティアチームを運営し、インバウンド観光に関する調査と情報発信を下記の通り行った。

<主な活動実績>

日時	内容	共催等
6/14	梅田の観光魅力を探すフィールドワーク	自主調査
7/10	産業観光モデルコースツアー(奈良県桜井市)	近畿経済産業局
7/19-20	梅田ゆかた祭 外国人客対応	梅田ゆかた祭り2015 実行委員会
9/29-30	産業観光モデルコースツアー(京都府京丹後市)	近畿経済産業局
11/8 12/12	インターナショナルビジュアルタクシーを活用した観光ワークショップ・モニターツアー	近畿運輸局
2/14	「日本遺産 滋賀 JAPAN HERITAGE SHIGA」モニターツアー	滋賀県
3/13	産業観光モデルコースツアー(大阪府吹田市)	近畿経済産業局

2. まちづくりに関する情報発信

● まちづくりセミナー

まちづくりに関する調査・研究の成果発表や様々な話題の提供を目的として、下記の通りセミナーを行った。

日時	タイトル・内容	共催等	参加
5/28	「これからの郊外 住まいと鉄道」第4回 駅から始まるコンパクトシティ形成に向けて	公益社団法人 都市住宅 学会関西支部	138名
9/15	プロジェクト研究会議「これからの都市計画を考える」 これからの都市づくりを巡ってーニュータウン計画を中心にー	NPO 法人地域デザイン研究 会	25名
11/4	「すまい・まちづくりトーク」第4回 都市再生の好循環を考える	一般社団法人 都市みらい 推進機構	161名
12/1	「これからの郊外 住まいと鉄道」第5回 沿線まちづくりの展開	公益社団法人 都市住宅 学会関西支部	162名
2/4	都市づくりについての技術研究発表と講演会	アーバンインフラ・テクノロジー 推進会議	153名

- まちづくりレター

まちづくりにかかわる様々な話題や動向を調査して、レター形式により配信した。(配信先: 都市活力研究所の顧客 DB 約 2500 名)

日時	タイトル・内容	筆者
11/20	NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメントの取り組み～住民主体のエリアマネジメント活動～	(監修)NPO 法人小杉駅周辺エリアマネジメント
11/27	街の公共空間を文化発信の場へー ニューヨーク:官民の協働パワーー	NPO 法人アート&リサイエティ研究センター 代表理事 工藤安代 氏
1/8	大阪都心・三休橋筋におけるまちづくり活動～さまざまな担い手の自立的活動の積み重ねによるまちの変容～	三休橋筋愛好会 篠原 祥 氏
3/24	大阪における光のまちづくり～13 年の歩みと 2020 年に向けて～	一般社団法人大阪・光の饗宴代表理事 岡智恵子 氏

- インバウンド観光セミナー

NPO 法人スマート観光推進機構との共催により、インバウンド観光における最新の取り組みを紹介するセミナーを開催し、観光関係者への情報提供とコミュニティの形成を行った。

日時	タイトル・内容	講師	参加
5/18	Across Japan Tourism Seminar	ISHIKAWA Communications 代表 George Lim 氏	24 名
9/2	インバウンド観光と日本酒の韓国向けマーケティング戦略	大阪経済大学 客員教授 李 容淑氏	35 名
10/7	関空のインバウンド戦略	新関西国際空港(株) 執行役員 石川浩司氏	42 名
11/2	ムスリム訪日客へのおもてなし対応	株式会社シーズ 代表取締役 三宅基生	30.名
1/8	グーグルを使って地方活性化ができるか？	Google Inc. 執行役員 杉原佳堯氏	68 名
2/5	ぐるなびのインバウンド戦略	株式会社ぐるなび 執行役員 杉山尚美氏	45 名
3/2	医療ツーリズム～中国人の動向～	株式会社マイルストーン 代表取締役 谷川真理子氏	44 名

【その他事業】 産業とまちの活性化のために実施する公益事業をより有効なものとするための補助的事業

1. NPO 法人バイオグリッドセンター関西の運営支援

- バイオグリッド HPCI プロジェクト
創薬にスパコンを活用しようというプロジェクトで 2012 年度よりスタート。現在、製薬企業 23 社、IT 企業 2 社、京大、産総研、先端医療振興財団が参画している。今年度は、蛋白質と候補物質の結合自由エネルギー（結合度合いを示す指標）を計算するため必要である蛋白質と候補物質の初期構造の探索方法を開発している。このプロジェクトを推進するため、NPO 法人バイオグリッドセンター関西が付与されたスパコン「京」の産業利用枠を利用している。
- NPO 事務局運営
5 月 30 日（土）の第 12 回総会およびバイオグリッド研究会開催をはじめ、事務局として、バイオ研究者や製薬企業・ICT・バイオ関連企業関係者の交流事業やプロジェクトメイキングの支援を行った。

2. 創薬バリューチェーン・プロジェクトの支援

コンピュータを活用した創薬の研究開発プロジェクトである創薬バリューチェーン・プロジェクトを引き続き推進し、前立腺がんの抗がん剤の開発プロジェクトを支援した。

3. スマートウェルネス研究会の運営支援

事務局として、本研究会主催のオープンセミナーの企画運営などを支援している。また、産学連携の促進や会員企業同士の連携支援なども行っている。一例として、大阪大学が進めているスポーツ科学 DB システム構築にあたり、会員企業とのマッチングを図りプロジェクト組成に繋げた。

4. エリアマネジメント活動の支援

- 梅田地区における案内所業務への支援
様々な主体が運営する梅田の案内所が連携してサービスの向上を目指す活動を支援している。案内所業務の課題に対応するため、情報収集を行っている。全体的な情報の把握と整理が必要なもの（バスのりば案内、鉄道路線図、金融機関など）のマップと詳細情報リストを作成し各案内所に配布するとともに、年 4 回更新を行った。
- 国際的ビジネス環境整備・シティセールス支援事業
国土交通省の補助金を活用して、梅田地区エリアマネジメント実践連絡会が実施する事業の一部を受託し、運営支援を行った。

期間	事業名	事業内容と受託業務
5/20～21	MIPIM JAPAN への出展	不動産分野での国際見本市への出展 (出展準備、ツール製作、ブース運営)
9～10 月	梅田プロジェクトマッピング2次開発	梅田エリアの開発プロジェクトを航空写真上にプロットしたデジタルコンテンツの開発 (ディレクション、追加データ収集、翻訳、登録)
12/2～3	メディア FAM トリップの実施	海外メディアを招待し、梅田のビジネス拠点としての魅力を発信(企画、招請、当日運営、フォローアップ)
3/15～17	MIPIM2016(カンヌ)への出展	不動産分野での国際見本市への出展 (出展準備、ツール製作、現地でのプロモーション)

5. 都市住宅学会関西支部の運営支援

2015年4月より、同学会より関西支部の事務局業務を受託し、運営を行っている。

【法人管理】 公益法人としての適正な運営

- 理事会を4回、評議員会を1回開催し、公益法人として適法運営に努めた。
- 満期を迎えた基本財産ならびに特定資産有価証券の再投資を行った。
- 2016年度よりシェアオフィス事業を直営化するため、大阪府への公益認定の変更申請を行った。

以上

附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の附属明細書は作成していない。